

「住みよい町をつくるには」

河原子小学校 四年一組 おみすみ 大隅 まきと 蒔人

総合学習の時間に、クラスで「住みよい町みんなの河原子」の福祉マップを作った。先生が地図を配り、まずは自分でお年よりや体の小さな自由な人の立場になつて町のあぶない場所や直した方がよいことを考えた。発表し合ひ、クラスで大きな地図にした。どうしたらもっとよだれでも住みやすい町になるのかみんな

まで話し合つた。

坂の上の道は見通しが悪く、工場にはたつ山の人を通きんするので、朝や夕方には車が行き来してあぶない。ぼくは、道がせまいで広くしたり、カーブミラーやしんごうきなど、の物をあいたらいいのではと考えた。思つていたよりもぼくの住んでいる町は「住みごこちが悪いのではないのか」と感じた。

せまい道路を広くしたり階段だんに手すりをつけたり、目が見えない人で分かるように

音がなるしんごうきにつけかえたりするのは
ぼく一人の力でできない。ぼくは、歩道を
広くしたりスロープを作ったりしたいと思っ
たけれど、町を整べたりりよろしやす
しせつをつくらたりするいがいにも何かでき
ることがあるのかなと思う。生活しやすい町
は、ものが整っているだけでなく住んでいる
人たちが、お年よりにもしょうがいがある人
にもだれにも親切にして、こまづいていた時に
は助け合っていていかにことが大切だと思う。ぼく
たち一人一人の気がかいが住みやすい町づく
りにながっていていよと思つた。こまづいてい
る人がいたら、ぼくもぼくができることをして
助けてあげたい。
あとは、クラスのみんなで考えた「住みよ
い町」に必要なアイデアが実現できてきたら
いいなと思う。見通しのよい道やしんごうき
の工夫、スロープや点字ブロックなどみんな
で町にはもつと必要だと言っていていきたい。